オーディオ実験室収載

アナログ関連アクセサリーの試聴(16)
—THE FUNK FIRM の Achromat（3）—

１．はじめに

前報(15)までは、LINN LP-12 についての報告でしたが、Garrrad401 に替えて THE FUNK FIRM の Achromat の試聴を行います。

２．Achromat の試聴方法

今回は、Garrrad401 に使用することとし、現在使用しているマイクロの銅板シートと和紙のシートを外し Achromat に替えてみます。

３．Achromat の試聴結果

Garrrad401 におけるアナログ盤の再生において、銅板シートと和紙のシートを Achromat に交換して試聴していきます。なお、Achromat の上には、前報(13)で報告した EL-AEX-Vol.3（エレスタ・アナログディスク EX）を載せています。

Garrrad401 は、LINN LP-12 のシステムに比べると、音の分離に難があり、大編成オーケストラや合唱曲の再生を避けてきました。今回、そういったものも含め、前報(14)と同じものを試聴していきます。

カンターテドミノでは Achromat に交換しますと、オルガンや合唱の分離が向上し、その分、ハーモニーがきれいになります。方向としては、LINN LP-12 のシステムに近寄っていきます。

マーラーの交響曲 3 番では Achromat に交換しますと、冒頭のホルンやグランカッサが明瞭になり、オケの各パートの分離も向上します。方向としては、LINN LP-12

のシステムに近寄っていきます。
ミトマニアは、中世の古謡のアンサンブルで元の銅板シートと和紙のシートでも十分鑑賞に堪えるものですが、Achromat に交換しますと、さらに音場感が向上し、アーチリュートなどの古楽器の音が澄んできます。
ラフマニノフのパガニーニの主題による狂詩曲では Achromat に交換しますと、ピアノの打鍵の立ち上がりが冴え、コントラバスのピチカートが明瞭になり、SPU Royal N の繊細な弦の表現が活きてきます。
ファリャの三角帽子は、もともと録音がいいので、元の銅板シートと和紙のシートでも十分鑑賞に堪えるものですが、Achromat に交換しますと、拍手やカスタネットの立ち上がりがクリアーになり、ベルガンサの声のとおりがよくなり、音場感が向上します。

４．まとめ

Garrrad401 におけるアナログ盤の再生において、銅板シートと和紙のシートを、3mm 厚の Achromat に交換しますと、音の分離と音場感が向上し、大編成の曲も許容範囲に入り、方向としては、LINN LP-12 のシステムに近寄ってきます。

以上